

令和 7 年度 国 語 (05コア・02プラス)

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで冊子を開かないでください。
2. この冊子には問題11ページ、マークによる解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ 、記述による解答用紙 $\boxed{\text{記述}}$ 各1枚がセットになっています。
3. 試験開始の合図があったら、問題のページ数を確認し、解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ ・ $\boxed{\text{記述}}$ をミシン目で折ってから冊子よりていねいに切り離し、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ の受験番号欄は、右を参考に記入してください。
4. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
5. 解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ はすべてHBの黒鉛筆(シャープペンシル可)で記入することになっています。答えを訂正する場合は、プラスチック消しゴムでよく消して、訂正してください。プラスチック消しゴムを忘れた人には貸与します。
6. 解答用紙 $\boxed{\text{記述}}$ は、HB以外の黒鉛筆(シャープペンシル可)や黒・青の万年筆またはボールペンを使用してもかまいません。
7. 文字ははっきり、ていねいに書いてください。
8. 解答用紙の点数欄には何も記入しないでください。
9. 複数の解答用紙がある場合、使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。
10. 「国語」のコア試験の配点は100点、プラス試験の配点は120点です。プラス試験の受験生の得点は、コア試験とプラス試験の配点比率に応じた調整を行います。なお、各問題には、コア試験の配点のみ記載します。

例 受験番号が
0637のとき

受験番号					
	千位	百位	十位	一位	
	0	6	3	7	
0	●	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	●	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	●	6	6	6
7	7	7	7	●	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9



2025 05コア・02プラス 国 語

解答用紙 マーク

良い例	悪い例
●	● ○ ⊗ ①

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

受験番号					
	千位	百位	十位	一位	
0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9

本欄は記入しないこと。

十位	一位
0	0
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9

CB05K-OMR

一

問(二)

1	2	3	4	5
①	②	③	④	⑤

問(三)

1	2	3	4	5
①	②	③	④	⑤

問(四)

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	
イ	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	イ
ウ	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	ウ
エ	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	エ
オ	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	オ

問(七)

1	2	3	4	5
①	②	③	④	⑤

問(八)

1	2	3	4	5
①	②	③	④	⑤

二

問(二)

a	b	c	d	e
①	②	③	④	⑤

問(三)

	1	2	3	4
A	①	②	③	④
B	①	②	③	④

問(四)

	1	2	3	4	5
①	①	②	③	④	⑤
②	①	②	③	④	⑤

問(五)

1	2	3	4
①	②	③	④

問(六)

1	2	3	4
①	②	③	④

問(七)

	1	2	3	4	5	6	7	8	
i	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	i
ii	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	ii
iii	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	iii

問(八)

1	2	3	4	5	6
①	②	③	④	⑤	⑥



05コア・02プラス

受験番号			

総点	
----	--

一 問 (一) 1

ぎ

2

れ

3

--

4

--

5

つて

(一) 一 評点

--

問 (五) P

--

Q

--

R

--

S

--

T

--

U

--

(五) 評点

--

問 (六) I

II

III

(六) 評点

--

二 問 (一) 1

--

2

--

(一) 二 評点

--

令和7年度 入試問題訂正票

法・経済・文・理・**国際社会科学** 学部 コア試験
法・**経済**・文・理・国際社会科学 学部 プラス試験
科目 国語 の試験問題について、訂正があります。

記

7 ページ

1 行目

三条の邸

誤

やしき

正

三条の邸

以上

問題は次のページより始まります。

一 次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。(配点六十五点)

^A年に2回、昭和10年に創設された直木賞と ア 賞の受賞者が発表されますが、その受賞会見はテレビや新聞などで

イ 的に報道されます。その様子を見てみると、時々、土中のモグラが急に太陽の下に出てきた時のような、そんな姿を思い出すことがあります。大変、失礼な表現ですが、決してネガティブな意味で言っているわけではありません。

普段テレビで見ている人たちの多くは、人前での立ち P 振る舞いも自然で、見られることに抵抗がないように思えます。自らタレントになろうというのだから、それはそうなのでしょう。一方、世の中には当然そうでない人もいます。私は職業柄、人前で話をする機会が多いのですが、実はもう圧倒的にモグラ派人間です。スポットライトのようなものが、とても苦手です。

私もこうして本など書いているので物書きの Q くれということになるので、文章を書くという作業の良い所は、一人である、ということです。誰に会わなくとも、他人との意見調整も必要なく、基本的には自分だけで作業が完結します。こういった他人とのつながりが切れた、 ウ 性と言えばよいのか、ある種の孤独と言えばよいのかわかりませんが、そういうものが文章を紡ぎだす¹ことに必要な要素として存在しているのではないかと、時々思います。自分を直木賞などの受賞作家と並べて語るのも大いに憚^{はばか}られますが、受賞会見で時々見るあの「モグラ感」には、なにかそのような要素を感じ、親近感を持つてしまうのです。

人間は社会的な動物で、どんな人も自分以外の人間とのつながりの中で生きています。みんなと同じユニフォームを着たり、同じ色の鉢巻きをしたり、そういった皆が同じことをすることで得られる一体感には、どこか気持ちを高揚させてくれる所があります。いろんな人と知り合いになれば、情報も多く入ってくるし、視野も広くなり世界が広がります。現代社会は情報社会であり、情報弱者は社会的弱者です。実際、他とつながり、より多くの情報を持てば、いろんな選択や判断に有利なことは多いでしょう。^B「モグラ感」なんて、一体、何に必要なのでしょうか？

しかし、です。極端な言い方になっているかもしれませんが、人は何かを知ってしまうと、知らない状態にはもう戻れませんが、それは悔²れない真実です。他人と共有する情報が増えていけばいくほど、自分の感性や考え方がそういった「常識」に感化されるようなことが起こります。また、何かの集団とのつながりが密になれば、周囲との関係で自分の行動が制約されることも起こります。日本は同調圧力が他国に比べて高いと言われていますが、

R

へ倣³え的な行動が「つながり」の中では重視されてしまうのです。

世の中には、私も含めて、そういったものにうまくなじめない人がいます。みんなの考えになじめない。みんながすることにうまく同調できない。だから「モグラ」的になっていく。しかし、それは本当に良くないことなのでしょう。いくら同じように振る舞ってみても、実際にはみんなが同じであるはずはありません。なになじめない、本当はそれで良いのではないかと思うのです。それがその人固有の感性であり、個性です。そこに他の誰にも書けない、あなただけの文章が生まれる

E

性が眠っているのです。文章を書くという行為は、もちろん外からのインプットも必要ですが、より大切なことは自分の内部で何かを作り上げる作業です。それは作曲家が自分だけのメロディーを生み出すように、人まねではなく、どこかで聞いた話をつぎはぎするのでもなく、自分の言葉で、何かを紡いでいく作業です。そこでは他から独立した時間や精神のようなものが何より大切で、いっそ土中にもぐって日光や新鮮な空気からもシャダン³されたような時空間が、その作業には適しているのかもしれない。だから隠しても隠しても「モグラ感」が出てきてしまうのです。

SNSやなんやで「つながり」とか「絆³」がもてはやされる時代ですが、他から「独立している」という要素は実はとても大切なものです。付^{そんたく}度とか、空気を読むというような振る舞いは、日本社会では常識となっていて、周到な

S

回しをして波風を立てず事を進めて行くのが日本の文化です。しかし、「つながり」を持った集団は良くも悪くも同じ論理や価値観を共有しています。そういった内輪だけで物事が決まると、しばしばそれは「暴走」のようなことを引き起こします。それは車で言えば、アクセルしかついていないような状態になるからです。

少し話は変わりますが、ドイツ生まれの哲学者ハンス・ヨナスが提唱していた生命観は独特で、この文脈で興味深いもので

す。ヨナスは細胞膜を通して物質が出入りする代謝、すなわち必要なものを環境から取り入れ老廃物を排泄^{はいせつ}することで、膜の内部に“特有の空間”を保持できることが、生命の本質と考えました。生命の代謝起源説と呼ばれるものです。そのような代謝を可能とする膜を持つことにより、周囲の環境に依存⁴してゾウシヨク⁴していた状態から、その適した環境を膜の中に作り自由に移動することが可能な存在になったとしました。つまり膜により生命は「自由」を手に入れましたが、同時に膜が破壊されることで訪れる「死」の宿命も T 負うようになったと提唱したのです。この膜という境界により内部と外部を分けることで「生」を定義するシンプルな概念モデルは、生物の細胞だけでなくさまざまな事象に適用が可能です。^C内部環境が外部と異なった状態で維持されている状態が「生」、内外の区別がなくなれば、それは「死」です。

つまりこの生命の概念に基づけば、より大きな集団の価値観の中に同化することは、その人の個性の「死」を意味します。ファシズムのような熱狂はそういった「屍^{しかばね}」を次々と吸収して オ 化していくモンスターのようなのかもしれない。何かを創作する者にとってもそういった「境界」の崩壊は、まさにクリエーターとしての「死」であり、それに抗⁵つて自己内側の密度を保たなくてはなりません。それが独立しているということなのです。

だから「独立している」ことは、「敵対する」ことと根本的に違います。単にその対象とは異なった論理や価値観といった、違う内容物で内部が満たされているということなのです。人間社会においては、そういった独立したものの存在が、物事の健全な発展や改善のために実はとても重要です。価値観を共有した集団内であれば合意は簡単で、確かに物事はスムーズに進みます。しかし、人間がやることには誤りがつきもので、違う価値観で動いているものからの指摘がなければ、それに気づけないことも多々あります。そういった自分たちと違う価値観からの指摘を入れて修正を繰り返すことで、物事は少しずつ発展、進歩していきます。

この観点で見れば、昨今、世の中全体が異論^Dに対して狭量^Dになっていくように感じます。ネット上の論争などでは、嘘でもデマでも相手の揚げ足をとってでも、なりふり構わず「はい、論破！」と見かけ上、言えれば勝ちみたいな風潮が蔓延^{まんえん}し過ぎていきます。自分とは違う価値観を持った相手の言い分から有益なものを引き出そうという姿勢ではなく、ただ勝ち負けみたいな話に

なっていました。本当に大切なのは勝ち負けではなく、より良くしていくことです。

政治の世界も似た話になっているように見えます。本来与党と野党は敵ではなく、野党は与党から独立した存在として、与党の案を補うようにアイディアを出し、お互い協力して国政を良くしていくべき存在です。しかし、権力者が自分に従う味方と、批判する敵という二分法を適用し、味方は U 不尽なほど厚遇し、敵にはどんなことをしても、言ってもよいという姿勢で臨んでいるように映ります。権力者のそういった狭量な公権力の行使は、自分と同質なものしか存在を許さないという社会に対するメッセージとなつてしまっています。また、味方をそのように厚遇する権力者の周囲には、おべっかや忖度が得意で、得ができればあとはどうでもいいような人間ばかりが集まり、何かの時に諫言^{かんげん}できる志を持った有能な人間は離れていつてしまします。それは国として最も不幸な状態です。今の日本はそれに近づきつつあるのではないか、そのことを憂えます。

(中屋敷均『わからない世界と向き合うために』による)

〔問題〕

(一) 傍線部1～5の片仮名を漢字に直し、漢字はその読みを平仮名の現代仮名遣いで、解答欄に記入しなさい。〔解答用紙 ア〕

〔記述〕

(二) 傍線部Aに「年に2回、昭和10年に創設された直木賞」とありますが、この賞を創設した人物は誰ですか。もっとも適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 ア〕

- | | | | | |
|--------|-------|--------|--------|---------|
| 1 有島武郎 | 2 菊池寛 | 3 志賀直哉 | 4 渋沢栄一 | 5 与謝野晶子 |
|--------|-------|--------|--------|---------|

(三) 空欄Aに入るもっとも適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 ア〕

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| 1 芥川 | 2 大江 | 3 川端 | 4 谷崎 | 5 夏目 |
|------|------|------|------|------|

(四) 空欄イ～オに入るもつとも適切な語を、次のa～lの中からそれぞれ一つ選んで、解答欄にマークしなさい。ただし、一つの語は一箇所にしか入りません。〔解答用紙Ⅱ〕

a	暗示	b	可能	c	感覚	d	巨大	e	具体	f	原初
g	相對	h	大々	i	抽象	j	典型	k	獨立	l	分散

(五) 空欄P～Uに入るもつとも適切な漢字一字を、解答欄に記入しなさい。ただし、同じ漢字は入りません。〔解答用紙記述〕

(六) 傍線部Bに「『モグラ感』なんて、一体、何に必要なのでしょうか?」とありますが、本文では「モグラ感」がどうしても必要だと述べられていますか。次の文章は、本文全体の主旨を踏まえて、それを説明したものです。空欄I～Ⅲに入るもつとも適切な箇所を、本文の中から指定の字数でそれぞれ一つずつ抜き出して解答欄に記入し、この文章を完成させなさい(字数は句読点、記号、符号を含みます)。〔解答用紙記述〕

今日の人間社会では、誰もが同じように受け取る多くの情報に取り巻かれることで、人が I 7 字 されやすい傾向が強まっている。そうした傾向は、人それぞれの Ⅱ 9 字 しかねないため、各自が他人とは

Ⅲ 10 字

を持つ努力をする必要がある。

(七) 傍線部C「内部環境が外部と異なった状態で維持されている状態」とはどのような状態ですか。その説明としてもっとも適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙7〕

- 1 必要なものと不要なものとの際どい均衡を保つ調整メカニズムが作動している状態。
- 2 不要なものへの侵入を防いで必要なものだけを保存する防衛装置が機能している状態。
- 3 必要なもののみをじっくり時間をかけて育成する保護環境が整備されている状態。
- 4 不要なものへの流入を感じて速やかに外部に掃き出す廃棄機構が常設されている状態。
- 5 必要なものと不要なものとの適切な選別が行える交流システムが確保されている状態。

(八) 傍線部Dに「世の中全体が異論に対して狭量になっている」とありますが、「異論に対して狭量になっている」理由は何ですか。その説明としてもっとも適切なものを、次の1～5の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙8〕

- 1 大量に発信される情報の波に飲み込まれ、物事の真偽の判断がつかない状況が一般化しつつあるから。
- 2 退けるべき共通の敵を見出し、集団の同志的な結束をはかろうとする傾向が顕著になっているから。
- 3 その場限りの優劣にこだわらず、いち早く発言することだけを重視する振る舞いが横行しているから。
- 4 自己の都合だけを最優先し、主張の異なる権力者をしぶしぶ支援する企てがあとを絶たないから。
- 5 情報の一元化に反発し、他人の声を無視して自分の独創性を生かそうとする風潮がはびこっているから。

二 次の文章は、中世の物語である『あきぎり』の一場面です。父のいない姫君は三条の邸で暮らしていましたが、そこに三位中将が通うようになり、契りを交わす仲になります。やがて姫君の母親が亡くなり、姫君は伯父の左大臣のもとに引き取られます。姫君は三位中将の子を懐妊していますが、三位中将は正妻側からの呪詛^{じゆそ}によって姫君のことを忘れてしまいました。また、姫君のもとには東宮からの入内要請^{じゆだい}があります。これらを踏まえ、次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。(配点三十五点)

はかなく秋にもなりぬれば、姫君は、御身隠れなきほどに見え給へば、宰相^{さいしやう}¹の乳母¹、少将などは、心苦しく見聞こえて、「さこそ思しはぐくみ給ふとも、大殿なども洩れ聞き給ひては、つひに思しめしうとまれ給はんずらん」と、心のひまなく嘆きゐたり。

この御ことは霜月^{しもつき}に当たらせ給ひたり。「この月は御帯などせさせ給ふべきを」²なんと、娘と二人、その細工しけり。東宮よりは、御心もとながらせ給ふを、「秋のころ、参らせん」と申し給へるに、かくもの思ひうち添へて、心地もなやましければ、起きも上がり給はず。気色もやしるかるらんとせば、いとど沈みまさり給ふを、今はとかく言ひ慰めつつ、「いつとなくかくても、いかがおはしますべきなれば、三条へも九月にならば急ぎおはしますべし。世の常にもてなしおはしませ。この月、三条へ渡し奉りて、御経なども、御心静かに書かせ奉らん。とく具し参らせん。これにては、いかでかおはしますべき」とて、うち嘆けば、とかくものたまはで引き被^Aきて泣き給ふも、ことわりなり。げにもと思すにⁱや、時々起きるなどし給ふ。

北の方はおはしまして、「いかにかくてはおはしますやらん。母君の御ことはことわりながら、それしかるべき世の習ひにてこそ侍れ。今はと思し慰みて、晴れ晴れしく思しなせ。東宮よりもあまりに心もとながらせ給へば、大臣は秋のころなと思ひ定め給ふに、かくのみおはしますこそ、心苦しけれⁱⁱ」とのたまへば、「ことわりと申しながら、片時立ち去らせ給はでおはしし御心ならひに、例なく思し嘆きて、今までもかく沈ませ給へるも、まことに心苦しく」とて、うち泣く。「久しく御墓なども、拝ませ給はぬことを、思し嘆くに、古里へ具し奉りて、少し御心も慰め奉らん」と申せば、北の方、「御思ひ、ひとつにおはしますべきかは。御心地も苦しげにおはしますは、いかなる御ことにか。いかがは目放し奉らん。さりながら、大臣にかくとこそ

② 申し侍らめ」とて、御物語し給ふ。姫君も念じて起き上がり給ひつつおはします御ありさま、まことにいつくしげに、^Bらうたく見え給へば、あはれにて、涙さへ落ちぬ。

さて帰り給ひて、大臣に、「宰相の乳母こそ、かうかうわびつるを」と語り給へば、「目放ち聞こえんはおほづかなけれども、さ思ひ給はんを、いかでか違へ聞こゆべき。おはしてやがて帰り給へかし」とて、古里へ渡し奉り給ふ。

渡りて見給へば、何となくものあはれなり。まづうち泣かれ給ふ。いにしへだにももの旧りて荒れたる宿なりしを、久しく見給はぬ御心地、いとどあはれにて、母上おはしまさしかば、いかに待ち喜び給はんと、いとど恋しく、思ひもまさる心地してかきくらさるる。

ふるさとを立ち来て見れば浅茅原いとど涙の露ぞこぼるる

と、うちながめ給ふ。今はかくておはしませば、つつましかりし方は、ⁱⁱⁱ少し心やすくおぼゆ。

(『あきぎり』による)

(注) 少将Ⅱ宰相の乳母の娘。

大殿Ⅱ左大臣。姫君の伯父。

御帯Ⅱ妊婦の着ける腹帯のこと。

北の方Ⅱ左大臣の

北の方。

大臣Ⅱ大殿に同じ。

古里Ⅱ三条の邸のこと。

〔問題〕

- (一) 傍線部 1・2 の漢字の読みを平仮名の現代仮名遣いで、解答欄に記入しなさい。ただし、1 は「うば」以外の読みを答えること。〔解答用紙記述〕

(二) 傍線部「霜月」とは何月のことですか。もつとも適切なものを、次のa～eの中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙㊞〕

- a 十月 b 十一月 c 十二月 d 一月 e 二月

(三) 傍線部A・Bの本文中の意味としてもつとも適切なものを、それぞれ後の1～4の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙㊞〕

A 引き被きて

- 1 着物を引きさいて
- 2 着物を脱ぎ捨てて
- 3 着物を頭からかぶって
- 4 着物を胸に抱きよせて

B らうたく

- 1 可憐にかれん
- 2 妖艶に
- 3 端正に
- 4 気丈に

(四) 傍線部①・②について、敬意の対象は誰ですか。もつとも適切なものを、次の1～5の中からそれぞれ一つ選んで、解答欄にマークしなさい。同じ選択肢を二回使っても構いません。〔解答用紙㊞〕

- 1 宰相の乳母
- 2 姫君
- 3 母君(母上)
- 4 北の方
- 5 大殿(大臣)

(五) 傍線部ア「それしかるべき世の習ひにてこそ侍れ」とは、どのようなことを指していますか。もっとも適切なものを、次の1～4の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙ア〕

- 1 亡くなった親の供養は子として当然すべきなのだということ。
- 2 懐妊は三位中将与深い因縁で結ばれている証^{あか}しだということ。
- 3 東宮への入内は世間の皆が喜ぶ素晴らしいものだということ。
- 4 死別というのは避けることのできない定めであるということ。

(六) 傍線部イ「少し心やすくおほゆ」という心情の解釈として、もっとも適切なものを、次の1～4の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙イ〕

- 1 亡き母君のことを思うと悲しみは募るが、大殿の北の方や宰相の乳母が出産の面倒を見てくれるはずなので、安心はできると思っている。
- 2 亡き母君のことを思うと悲しみは募るが、大殿たちの目の届かない三条邸なので、懐妊を隠す必要がないという点で気が楽になっている。
- 3 ただでさえ荒れ果てていた邸に、今は母君もいないと思うと悲しいが、今後は大殿が庭を荒れないように気にしてくれると期待している。
- 4 ただでさえ荒れ果てていた邸に、今は母君もいないと思うと悲しいが、宰相が帰邸を待ちかまえて喜んでくれたので心がやわらいでいる。

(七) 傍線部 i ～ iii の文法的説明としてもつとも適切なものを、次の 1 ～ 8 の中からそれぞれ一つ選んで、解答欄にマークしなさい。ただし、一つの選択肢は一回しか使えません。〔解答用紙 ㊞〕

- | | | | |
|---------------|-------------|----------|----------|
| 1 断定の助動詞 | 2 完了の助動詞 | 3 過去の助動詞 | 4 尊敬の助動詞 |
| 5 形容詞の活用語尾の一部 | 6 形容動詞の活用語尾 | 7 格助詞 | 8 副助詞 |

(八) 本文の内容と合致するものを、次の 1 ～ 6 の中から二つ選んで、解答欄にマークしなさい。ただし、三つ以上マークした場合は 0 点とします。〔解答用紙 ㊞〕

- 1 大殿は姫君を大事にしているので、姫君は懐妊を知られても許されると思っていた。
- 2 姫君の出産の予定が近づいたので、左大臣の北の方は腹帯を用意して出産に備えた。
- 3 宰相の乳母の助言に従い、姫君も時々は起き上がることで懐妊を隠そうとしていた。
- 4 東宮は姫君の入内を待ちわびていて、秋ごろに入内するようにと大殿に命じてきた。
- 5 大殿は姫君から目を離したくなかったが、姫君の望みならと三条への帰邸を許した。
- 6 姫君は母君が生きていたとしても身重の自分を喜ばなかっただろうと思って泣いた。